

氏名	安藤 明美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6139 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Risk Factors for Low Bone Mineral Density Determined in Patients in a General Practice Setting (総合診療の臨床における骨密度低下に対する危険因子の検討)
論文審査委員	教授 尾崎敏文 教授 大塚愛二 教授 芦田耕三

学位論文内容の要旨

【緒言】

骨密度低下に関わる様々な因子を抽出し、その成果を臨床に還元することを目的とした。

【対象と方法】

2014 年 1 月から 2015 年 12 月に岡山一大学病院総合内科で骨密度を測定した 168 人につき診療録から情報を得て統計解析を行った。

【結果】

重回帰分析による調整モデルでは女性であること、加齢、補正 Ca 高値は大腿骨骨密度低下と、BMI の増加は大腿骨骨密度増加と統計学的に有意に関係があることが明らかとなった。

【考察】

女性および年齢という因子は独立して、大腿骨骨密度の減少への関与が考えられた。加齢は大腿骨骨密度の減少と関連があり、これは加齢に伴う骨代謝の影響と考えられた。BMI の減少は加齢や性別よりも強く大腿骨 BMD の低下に関係する一方で、高齢者ではフレイルの状態が骨密度低下に影響していると考えられた。

【結論】

総合診療の臨床において、女性、高齢者、そして血中カルシウム濃度が高い場合や BMI が低いケースでは、大腿骨骨密度低下の可能性に対して注意を払う必要がある。

論文審査結果の要旨

骨密度低下に関わる様々な因子を抽出し、その成果を臨床に還元することを目的として、2014 年 1 月から 2015 年 12 月に骨密度を測定した 168 人につき診療録から情報を得て統計解析を行った。重回帰分析による調整モデルでは女性であること、加齢、補正 Ca 高値は大腿骨骨密度低下と、BMI の増加は大腿骨骨密度増加と統計学的に有意に関係があることが明らかとなった。

本研究では、総合診療の臨床において、女性、高齢者、そして血中カルシウム濃度が高い場合や BMI が低いケースでは、大腿骨骨密度低下の可能性に対して注意を払う必要があることが示された。

委員からは、それぞれの因子の持つ意味に関する質問のほか、骨質の評価方法をどうするか、超高齢社会における骨折と介護の関係など、様々な観点から質問が行われ、適切に回答した。

本研究は、大腿骨骨密度低下の低下に関して様々な因子を用いて説明を行い、重要な治験を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。